

日本の初期看護教育にF. ナイチンゲールが与えた影響 - 使用されたテキストと卒業生の看護書から -

坪井良子*, 平尾真智子**, 佐藤公美子*, 清水祐子*

本研究は、日本の初期看護教育に使用されたテキストと卒業生の看護書からF. ナイチンゲールが日本の看護教育に与えた影響について明らかにすることを目的とした。

看護教育に使用されたテキスト『ハンドブック・オブ・ナーシング』と平野鏡著『看病の心得』、笹岡とよ子著『看病法』の3冊をもとに分析・検討した。その結果は以下のように要約される。ナイチンゲールが『ノーツ・オン・ナーシング』の中で述べている看護の視点と一致することが多くみられた。それは、看護の本質として病人を中心にすえ、病人を中心に環境を整えることに主眼がおかれていた。日本の看護教育が開始された時点から、ナイチンゲールの看護の思想が有形、無形に日本の看護教育に大きな影響を与えていたことが検証された。

キーワード：F. ナイチンゲール, ノーツ・オン・ナーシング, 看護教育

1 はじめに

F. ナイチンゲールは近代看護学を確立し、1859年『ノーツ・オン・ナーシング』¹⁾を著した。そして翌1860年セント・トーマス病院にナイチンゲール看護婦訓練学校での教育を開始した。その後ナイチンゲールの看護の思想は世界に広がっていった²⁾。1870年代にはアメリカの看護教育に、そして1880年代に日本の初期看護教育にも間接的・直接的にナイチンゲールの指導を受けた人々がかかわっていることが明らかにされている^{3) 4)}。

わが国での近代看護教育の開始は、1885(明治18)年有志共立東京病院看護婦教育所であり、看護の指導者はM. E. リード(M. E. Reade, 生没年不明)があたった。リードはこれまでに氏名、所属、来日年および滞在年数、看護教育に当たったことは明らかにされているが、生没年、出身地、出身校については、未だに明らかにされていない⁵⁾。有志共立東京病院看護婦教育所と殆ど時期を同じくして京都看病婦学校と桜井女学校看護婦養成所が設立された。京都看病婦学校で指導にあたったリンド・リチャーズ(Linda Richards, 1841-1930)は米国での最初の登録看護婦で、ナイチンゲール看護婦訓練学校での研修記録も残されており、その活躍は有名である。桜井女学校看護婦養成所生徒の指導に当たったアグネス・ベッチ(Agnes Vetch, 1842-1942)は、ナイチンゲール看護婦訓練学校の卒業生によって教育を受けている⁶⁾。

筆者らはこれまでに、有志共立東京病院看護婦教育所でテキストとして使用された『ハンドブック・オブ・ナーシング』(本書はアメリカのコネチカット看護学校で出版された)と同教育所卒業生の平野鏡著『看病の心得』との比較を試みている⁷⁾。このたび、同教育所2回生笹岡とよ子著『看病法』⁸⁾を見出だした。そこで、本研究で

は、『ハンドブック・オブ・ナーシング』、『看病の心得』、『看病法』の3冊をもとにして、ナイチンゲールが日本の看護教育に与えた影響について明らかにすることを目的とした。

2 日本での看護婦教育の開始

日本で最初に看護婦教育が開始された有志共立東京病院看護婦教育所は、英国のセント・トーマス病院医学校で5年間の留学を終え、1880(明治13)年に帰国した高木兼寛によって1885(明治18)年に設立された。高木が留学していたセント・トーマス病院医学校には、ナイチンゲール看護婦訓練学校が1860年に設置されていた。高木は看護婦教育所開設にあたって指導者を米国長老教会ジャパン・ミッションに求めた結果、看護婦の資格をもつM.E.リードが最初の看護教育にあたることになった⁹⁾。

リードは同教会ジャパン・ミッション婦人宣教師として1881(明治14)年10月3日英国船オセアニック号(3,700トン)に、宣教師J. B. ポーターらとともに乗船して、サンフランシスコを出港し同月29日横浜港に到着している¹⁰⁾。リードはキリスト教の伝導を目的として婦人宣教師ツルーらとともに東京中六番町に居留していた¹¹⁾。ジャパン・ミッションは日本の看護教育に携わることになったリードを派遣することについて高木との間で1885(明治18)年1月7日契約を取り交わした。契約内容は、2年間無給で勤務し、職務は病院の規則に従い、1日4時間を超過しないこと、院内のどの場所にも立入ってもかまわないこと、使用人2名と2つの部屋、生活に必要な諸雑費を支給すること、職務に差し支えない限りキリスト教の布教をしてもよいこととされた¹²⁾。

1885(明治18)年9月には、看護婦教育所第1回生として13名の生徒見習生が許可され、3か月の見習期間の後適性と認められた5名が生徒として採用された。入学試験は、読み、書き、算術、体格検査、面接であった。看護婦生徒はいずれも家庭で教育を受けた士族の子女であ

*山梨医科大学医学部看護学科

**山梨県立看護大学

った。翌年1月には桜の木に囲まれた瀟洒な建物が完成し教育が開始された。看護婦取締M. E. リードは、教育はもちろん、生徒の服装を整えることにも熱心で、学校生活・寮生活全般にわたり、努力を惜しまず指導・監督にあたり看護婦の育成に尽力した¹³⁾。

3 F. ナイチンゲールの『ノーツ・オン・ナーシング』と『ハンドブック・オブ・ナーシング』との関連

有志共立東京病院看護婦教育所でのリードの教育内容の詳細については明らかでないが、同教育所では『ハンドブック・オブ・ナーシング』¹⁴⁾がテキストとして使用された。本書は1880年ロンドンのリップスコット社から発行された。同社(1792年創立)は、メインオフィスを米国フィラデルフィアにおき、本格的な営業はイギリスで行っていた。有志共立東京病院看護婦教育所で使用された『ハンドブック・オブ・ナーシング』は、高木兼寛が1880年セント・トーマス病院医学校での留学を終え帰国する時に持ち帰ったものであり、現在でも慈恵医科大学情報センターの高木蔵書として保存されている。高木蔵書の『ハンドブック・オブ・ナーシング』の内扉の左上には、小さな緑色のシールが貼られ、その書はロンドンにあるRICHARD KIMPTOMという書店で購入していることが分かる¹⁵⁾。

『ハンドブック・オブ・ナーシング』はアメリカのコネチカット看護学校の教員たちによって書かれ1880年に出版された。コネチカット看護学校は1873年にベルビュー看護学校、ボストン看護学校とともに設立された。この3校は、いずれもナイチンゲール看護婦訓練学校の教育方式をモデルとしており、アメリカにおける最初のナイチンゲール式看護学校と呼ぶことができる。3校のうちベルビュー看護学校が最初に設立され、他の2校はそれをモデルとした形跡がみられる。学校の設立にあたって、準備委員の医師ギル・ウェイリーは、イギリスのセント・トーマス病院に3週間滞在して、看護教育の状況を視察し、ナイチンゲールから学校設立に関しては手紙

での指導を受けている。それには、看護婦は独自の機能を持っていることが強調され、看護婦教育は教育に全責任を持つ看護婦の資格を有する監督者の下におかなければならないことが主張されている。アメリカでナイチンゲールプランをモデルとして最初の看護学校が開設された時、テキストとして、ナイチンゲールの『ノーツ・オン・ナーシング』が使用された。その後コネチカット看護学校は独自のテキストとして看護婦、医師からなる委員会によって『ハンドブック・オブ・ナーシング』を出版した。この書はアメリカでの最初の看護テキストとして広く採用された。発行後35年を経てもその書の印税を学校の基金の一部にしていたほどであったという¹⁶⁾。

ナイチンゲールの『ノーツ・オン・ナーシング』と『ハンドブック・オブ・ナーシング』を内容的に比較検討すると次のとおりである。第一に書かれた目的が異なっている。前者は「一般女性」のために書かれ、後者は「専門看護婦」のためのものであり、内容も専門看護婦に必要な実用的・包括的な知識内容になっている。項目としては、内科・外科・小児科・産科・伝染病・救急法・公衆衛生と広範囲に及んでいる。しかし、細部の内容に至っては、ナイチンゲールの『ノーツ・オン・ナーシング』と類似した看護内容を随所にみることができる。これは、初期のアメリカ看護教育がナイチンゲール看護教育を継承して開始されたという歴史的背景からして当然のことと思われる。

4 テキストに使用された『ハンドブック・オブ・ナーシング』と卒業生による『看病の心得』との関連

有志共立東京病院看護婦教育所でテキストとして使用された『ハンドブック・オブ・ナーシング』と卒業生平野鏡の『看病の心得』¹⁷⁾を比較検討すると、内容の随所に類似点を見出すことができる。

平野鏡(本名藤, 旧姓安田.1869-1969)は、東京慈恵医院看護婦教育所(明治20年有志共立東京病院から改称)7回生として入学し、卒業後2年間の実務を経て家庭の

表1 『ハンドブック・オブ・ナーシング』と『看病の心得』の関連

ハンドブック・オブ・ナーシング		看病の心得		
第1部	第1章 看護婦一部屋一患者	第1章	一般の心得 体温及び検温器使用法、脈搏、呼吸、病室の選定及び注意、病室換気法及び掃除、室内温暖法、病人の介抱、投薬の注意、病人食の介助、口中清潔法、病人食の調理法、換衣及び換薬法、尿尿の介助	
	第2章 器具一外用薬一入浴一マッサージ		第2章 外用薬使用法 灌腸の目的及び灌腸法、坐薬、導尿管使用法、塗擦剤の用法、芥子泥貼用法、発泡膏貼用法、水蛭貼用法、吸角貼用法、蒸気吸入法、温電法、冷電法	
	第3章 特殊な内科的なケース		第3章 浴法 沐浴、全身浴、清拭法、脚湯、半身浴、食塩浴、硫黄浴、湿布浴法、蒸気浴及び熱気浴、各種浴湯の温度及び三氏検温器の比較	
	第4章 体温一脈拍一呼吸一尿		第4章	各病の手当 脳膜炎、脳溢血、卒倒症、癲癇、ヒステリー、日射病、眼病の注意、歯痛、驚口痛、耳下腺炎、咽頭痛、呼吸器病に於ける一般の注意、咳血、吐血、疝痛、下痢、腹膜炎、リウマチ、産褥期中の摂生法、産児保護法及び養育法、水痘
	第5章 小児の急性期疾患の看護の方針			第5章 伝染病看護法 腸チフス、赤痢、コレラ、麻疹、痘瘡、ジフテリア、猩紅熱
	第6章 外科の看護		第6章	救急手当 刺傷、挫傷、脱臼、骨折、一般止血法、火傷及び湯症、薬液における火傷、狂犬狂猫及び毒蛇の咬傷、毒虫の刺傷、眼中異物、鼻腔内異物、咽頭内異物、耳内異物、溺没、首吊り、中毒、窒息、人工呼吸法、巻軸包帯
	第7章 消毒と伝染病の看護			
	第8章 救急法			
第2部	産科看護の指針			

人となった。家庭で家族の健康を守ることから看護の知識や技術は一般婦人も広く理解しておく必要があることを痛感して『看病の心得』を著した。それを著すとき、看護婦教育所で学んだ講義内容がもりこまれたであろうことは容易に想像のつくことである。

『ハンドブック・オブ・ナーシング』は3部から構成され、第1部 内科-外科の看護、第2部 産科看護の指針、第3部 家族の衛生となっており、第1部 内科-外科の看護は8章から構成されている。

『看病の心得』は6章構成からなっている。『ハンドブック・オブ・ナーシング』と『看病の心得』の関連を内容から検討すると表1の関連図のようになる。『ハンドブック・オブ・ナーシング』の第1章 看護婦-部屋-患者、第2章 器具-外用薬-入浴-マッサージ、第4章 体温-脈拍-呼吸-尿は、『看病の心得』の第1章 一般の心得、第2章 外用薬使用法、第3章 浴法にもりこまれている内容とほぼ同様である。また、前者の第3章 特殊

な内科的なケース、第5章 小児の急性期疾患の看護の方針、第2部 産科看護の指針の一部分は、後者の第4章 各病の手当に、また、前者の第1部、第7章 消毒と伝染病の看護は後者の第5章 伝染病看護法に、前者の第1部、第6章 外科の看護と第8章 救急法は、後者の第6章 救急手当にそれぞれもりこまれている。このように二冊の書の構成は実によく類似している。平野鏡は、看護婦養成所において『ハンドブック・オブ・ナーシング』をもとに教育を受けたことから、自ら著した『看病の心得』にもその内容が踏襲されたものと考えられる。

5 『看病の心得』と『看病法』との関連について

『看病法』は、笹岡とよ子によって婦人雑誌第68号(明治26年9月3日発行)、第69号(明治26年10月発行)の2号にわたり講話の項に執筆されている。この記事の存在と項目についてはすでに取り上げられているが¹⁸⁾、内容の詳細な分析は行われていない。笹岡とよ子は、1886

表2 『看病法』と『看病の心得』との類似点

	『看病法』 1893	『看病の心得』 1896
著者	笹岡 とよ子	平野 鏡
換気	病床は可成べく四壁より離して置くべし、然するときは空気が四方より通し易く、又看護する者も床側に於て動作するにも大に便なり 又病室の障子紙上部を一通切取れば、室内の汚気上部より去て、暖炉も代用をなす病室は明かにして爽快ならしむべし (第八：病室及び其整理)	病牀は可成室の中央に設くべし。是れ自然空気の流通を良くするのみならず、看護者が牀側に於て動作にも亦便なればなり (第一章(四)病室の選定及び注意)
臭い	病室の内に於て何かあしき臭気が致しました時に、良く其臭ひを消すために、香水を散布致したり、又は薫物を焼きまして、早く其臭氣を消さんとあせる人がありますか、香水を撒きたり、或いは薫物を焼きましてとて、決して其汚気は去る者にてはありませぬ (第十七：香料及び薫物)	漫りに香水を散布し、薫香の物を焚くも、決して汚氣を清むる能はざる事を了知すべし (第一章(五)病室換気法及掃除)
暖房	若し家内に暖炉なき時は、病室の隅に火鉢を配置して、其室内を温暖ならしむるを要す、其火鉢には決して炭を入れるとなきやうに注意し、病室外に於て、能く赤く火を起して然る後病室に入れるべし、炭をつぎては、其炭酸瓦斯室内に蒸發して病者に害あり (第八：病室及び其整理)	室内温暖法に種々あれども、普通選用する者は、暖爐、火竈及び蒸気筒とす 一般に用ゐる所の火鉢は、木炭より炭酸瓦斯を發生するの虞あれば、之を用ゐるには先づ病室外にて木炭を充分紅灼して後室内に移すべし (第一章(六)病室温暖法)
物音	病人が静かに眠りて居ればとて耳語するは、往々見とめますが、之れは病人に對して甚だ宜敷ありません (第一：病人に就て注意)	殊に睡眠中は心を用ゐ、病者の傍に侍し、静かに編物或は書見等を為すも、決して音読すべからず (第一章(七)病人の介抱)
	他の病者の重症のこと、病院中の惨話手術及び苦痛の牀、又は犯罪災害の新聞等、凡そ悲嘆の情を催すべきとは、病者の前に於て語るべからず (第四：病者の前に於て話すべからざる事柄)	犯罪又は災害に関する新聞小説等の如き、都て悲哀を催すべき者は必らず之を避け、只管病者の心神を慰むべき者のみを選ぶべし (第一章(七)病人の介抱)
陽光	病室は能く日光を受け、且つ暖炉を備へたる者、病者のために最も佳良なれば、若し家内に於て斯の如き室あらば、病者を其室に移すを最良とす	病室は可成閑静にして明朗開曠室を選び。又冬季に在りては、暖爐の備ある室を良とす (第一章(四)病室の選定及び注意)
部屋の清潔	脆く壊れ易き飾具、其他徒に塵埃の媒介となるべき不用の器物は悉く室外に出すべし (第八：病室及び其整理)	裝飾器具等の如き無用の物は、可成病室に置くべからず (第一章(四)病室の選定及び注意)
傳染病看護	總て傳染病は、消毒法さへ行き届きますれば、少しも恐ろしき者では御座りませぬ、其防腐薬は、水六升、盤四百八十目、石炭水三十目をよく調合致しまして、便通の前後に少量つゝ便器の内に入れまして、消毒法をなされば決して傳播するものにてはありませぬ (第十一：便器用防腐薬)	消毒法は各病少し其趣を異にすれども大概左の規定に従ふべし。便器は常に二十五倍乃至五十倍の石炭酸水少量を注ぎ置き又消毒薬に浸したる布片を被ひて取扱ふべし而して排泄後は更に其内容に倍する石炭酸水を注ぎ、必ず蓋を有する甕に取纏め置き醫師の指定する場所に棄つべし (第五章 傳染病看護法)

(明治19)年2月4日有志共立東京病院看護婦教育所見習生として入所し、同年7月1日2回生として採用され、1888(明治21)年7月1日に卒業している¹⁹⁾。東京慈恵医院看護婦教育所看護婦入退簿によれば「笹岡トヨ」と記されている。笹岡トヨが学んだ明治19年2月は、看護婦取締のM. E. リードが直接教育に当たっていた時期であった。

『看病法』の構成は全部で19項目について書かれ、これらの項目は、第1病人に就ての注意、第2病者の厭ふへき諸件、第3病者の安静を催進する法、第4病者の前に於て話すべからざる事柄、第5病者の容体は話柄となすべからざる事、第6沈鬱したる病者の取扱、第7人事不省なる病者の取扱、第8病室及び其整理、第9床側の机、第10防臭薬、第11便器用防腐薬、第12病室内の温度、第13通気、第14冷室、第15病室の通気を助くる法、第16戸口の開放、第17香料及び薫物、第18病室通気法の便法、第19空気の通気を一層十分ならしむる法の順となっている。『看病法』は2回にわたって執筆されているが婦人雑誌第69号の最後に(未完)となっていることから、19項目以後の項目も予定されていたと思われる。19項目中多く執筆されているものは、病人に関する内容が多く、19項目中の第1項目から第7項目を占めている。内容面では病人・病者に関するものが7項目と最も多く、ついで病室に関するものが4項目となっている。それ以外の項目は環境に関したものととなっている。『看病法』では、「病人」に関する内容項目が7項目を占めており、まず病人に焦点をあて、病気をもつ人への扱いを優先している。

また、看病法として記述している内容では、病人・病室と環境をその内容としていること、さらに1項目ごとの記述の分量としては、病室や環境に関するものに焦点があてられ、量的にも多く記載されている。笹岡の『看病法』は衛生学的な面をとらえ、看護婦独自の生活に直結した面を多くとらえ、看護婦の視点から述べられているところが特徴である。笹岡の『看病法』と平野の『看病の心得』との共通点は表2のように実に多く、文章表記も類似している。また、ナイチンゲールの『ノーツ・オン・ナーシング』と『看病法』を比較・検討すると表3のようになり、『ノーツ・オン・ナーシング』の1.換気と暖房、4.物音、10.部屋と壁の清潔の項に関連性が高く、共通した内容が多い。これは二人が学んだ過程において間接的にナイチンゲールの影響を受けている結果であると考えることができる。

6 考察

今回、F. ナイチンゲールが日本の初期の看護教育に与えた影響について、ナイチンゲールの著書『ノーツ・オン・ナーシング』を原点として、アメリカのコネチカット看護学校でのテキスト『ハンドブック・オブ・ナーシング』、さらに、有志共立東京病院看護婦教育所2回生笹岡とよ子の『看病法』、同7回生平野鏡著『看病の心得』をもとに検討を試みた。それぞれの分析にあるように、ナイチンゲールが『ノーツ・オン・ナーシング』のなかで述べている看護の視点と一致することが多く、日本の初期の看護婦が看護の本質としてとらえていたこと

表3 『看病法』と『ノーツ・オン・ナーシング』の関連

看病法	ノーツ・オン・ナーシング
第一 病人に就ての注意	一、換気と暖房 ・看護の第一の原則は屋内の空気を屋外の空気と同じく清浄に保つこと ・寒がらせないで換気するにはどうするか ・窓を開けること ・どんな種類の暖房が望ましいか ・ほとんどの寝室は不潔である ・窓の開け方 ・どのような時に暖房について細心の注意を必要とするか ・冷たい空気が換気のしるしではないし、また新鮮な空気を必ずしも冷やする必要はない ・吹抜け風 ・煙 ・消毒 ・空気は戸外から入れること、窓は開けドアは閉じること
第二 病者の厭ふへき諸件	
第三 病者の安静を催進する法	
第四 病者の前に於て話すべからざる事柄	
第五 病者の容体は話柄となすべからざる事	
第六 沈鬱したる病者の取扱	
第七 人事不省なる病者の取扱	
第八 病室および其整理	二、住居の健康 ・清浄な空気 ・どんな種類の暖房が望ましいか ・採光
第九 床側の机	四、物音 ・不必要な物音 ・患者を寝入りばなに起こさないこと ・予感をかきたてる音 ・室内でのひそひそ話 ・あるいはドアの外でのひそひそ話し ・わざとらしさ ・音を立てる看護婦を患者は嫌悪する ・病人に害を与えないで訪問するには ・せかすことは病人にとって特に有害である ・患者が行動しているときに話しかけないこと ・朗読
第十 防臭薬	
第十一 便器用防腐薬	
第十二 病室内の温度	九、陽光 ・健康にも回復にも欠くことができない
第十三 通気	十、部屋と壁の清潔 ・敷物と家具の清潔 ・部屋が汚れる三つの原因 ・対策 ・衛生看護
第十四 冷室	
第十五 病室の通気を助くる法	
第十六 戸口の開放	
第十七 香料及び薫物	
第十八 病室通気法の便法	
第十九 空気の通暢を一層十分ならしむる法	

出典：笹岡とよ子 (1893) 『看病法』
湯慎ます他訳 (1968) 『ノーツ・オン・ナーシング』
坪井良子編 (1989) 『看護の栞』

が、ナイチンゲールが看護の本質としてとらえていたことと一致する部分が多くみられた。それは、まず第一に病人を中心に据えていること、また病人を中心に病室や環境を整えることに主眼をおいていることがわかる。

日本の初期看護教育が開始された時点から、看護に関する視点は人間を中心としており、生活環境に重きをおいていたことが明らかにされた。これらのことは、日本の初期の看護教育、特に有志共立東京病院看護婦教育所での教育が間接的に、F. ナイチンゲールの影響を受けているといえる。同時に「看護」が日本の一般女性向けの雑誌に、また単行本として女性に必須の教養として啓蒙され始めたことも、合わせてナイチンゲールの『ノーツ・オン・ナーシング』の出版目的とも合致している。このように日本の初期の看護教育にF. ナイチンゲールが与えた影響は大きく、その看護思想は卒業生の書物を通して継承されてきたことを明らかにすることができた。

文献および註

- 1) Florence Nightingale (1859) Notes on Nursing —What it is, What it is not. Harrison, 59, Pall Mall, 79pp
本書“Notes on Nursing”の全訳は、岩井禎三訳(1912)『看護の栞』として日本赤十字社発行所から出版されている。復刻版としては、坪井良子編集(1989)近代日本看護名著集成第十巻に『看護の栞』が大空社からだされており、その後小玉香津子訳『看護覚え書』(現代社)絶版、湯楨ます他訳(現代社)、尾田葉子他訳(日本看護協会)他があり、いずれも『看護覚え書』として出版されている。
- 2) Baly, M. (1986) Florence Nightingale and the Nursing Legacy, Croom Helm.
- 3) Hisama, K. (1996) Florence Nightingale's Influence on the Development and Professionalization of Modern Nursing in Japan. Nursing Outlook vol44, no6, 284-288.
- 4) 上岡澄子(1995)近代日本におけるフロレンス・ナイチンゲールの受容—ナイチンゲール精神のルーツを探る, 福井県立大学看護短期大学部論集, 第2号.
- 5) 坪井良子(2000)最初の看護教育指導者M. E. リード. 看護教育41 (8) ,586-588.
- 6) 平尾真智子(1990)エジンバラ王立救貧院病院とアグネス・ベッチ, 日本医史学雑誌,36 (3) .
- 7) 坪井良子, 平尾真智子(1985)わが国初期の看護教育と『ハンドブック・オブ・ナーシング』, 総合看護4号,115-129.
- 8) 笹岡とよ子(1893)看病法, 婦人雑誌第68号,9-12.同69号, 18-21.

婦人雑誌は1888(明治21)年に浄土真宗本願寺派の僧侶によって設立された婦人教会の機関誌で、創刊時は『婦人教会雑誌』として発刊された。

明治17年から26年までに創刊された婦人雑誌『女学新誌』, 『女学雑誌』, 『日本の女学』, 『婦人衛生雑誌』, 『東京婦人矯風会雑誌』他5冊には看護婦による看護法の記事は見当たらない。

- 9) 慈恵看護教育百年史編集委員会編(1984)慈恵看護教育百年史, 東京慈恵会. 東京.
- 10) THE JAPAN GAZETTE (1881) 118.P267.
- 11) INDEX TO LETTERS&REPORTS OF JAPAN MISSION (1859-1892)
- 12) 慈恵看護教育百年史編集委員会編前掲書9), 21-28.
- 13) 慈恵看護教育百年史編集委員会編前掲書9), 21-28. 55-62.
- 14) Connecticut Training School for Nurses (1880) A handbook of nursing for family and general use.36.J.B.Lippincott,London.
- 15) 坪井良子, 平尾真智子前掲書7) ,115-129.
- 16) Griffin, G. ,Griffin, J. (1973) History & Trends of Nursing, 220. C. V. Mosby, Saint Louis.
- 17) 平野鏡著(1896)看病の心得, 博文館.復刻坪井良子編(1989)近代看護名著集成4巻,看病の心得.解説 坪井良子, 大空社.東京.
本書『看病の心得』は明治29年5月5日日本で最初の看護婦自らの手による著書として発行されている。
- 18) 亀山美知子(1985)近代日本看護史,看護婦と医師, ドメス出版. 東京, 162-164.
- 19) 東京慈恵医院看護婦教育所看護婦入退簿(内部資料)による。
- 20) 松田誠(1990)高木兼寛伝, 講談社, 東京.

Abstract

**The Influence of F. Nightingale on the Early Stages of Nursing Education in Japan
– As Seen in Textbooks and the Writings of Nursing Graduates –**

Yoshiko TSUBOI*, Machiko HIRAO,
Kumiko SATO* and Yuko SHIMIZU***

The purpose of this study was to clarify the influence F. Nightingale had on nursing education in Japan by looking at the textbooks used in the early stages of nursing education in Japan and the writings of nursing alumni.

We analyzed three textbooks for our study :

“A Handbook of Nursing”, “Kanbyo no Kokoroe” by To Hirano, and “Kanbyoho” by Toyo Sasaoka.

The results are summarized as follows : The view of nursing found in the Japanese textbooks was found largely to match what Nightingale wrote in “Notes on Nursing” . This view was that the patient was central to the essence of nursing and the main point of nursing was to produce an environment with the patient foremost in mind.

Our study verified that Nightingale’s ideas on nursing had a big influence, both tangible and intangible, on nursing education in Japan from the very beginning.

Key Words : F. Nightingale, Notes on Nursing, Nursing Education

* Yamanashi Medical University, School of Nursing

** Yamanashi College of Nursing